

基調講演

「釜山・大連からのメッセージ」

林 正徳（釜山発展研究院院長）

司会者の方から、私に1～2分で要約しなさいということ。お手元の最初の林先生の資料をご覧になっていただきたいと思いますが、3点のポイントがあったわけです。

今、第3千年記に入っていこうとしているわけですが、最初のお話は最初の1000年、それから次の1000年というお話で、最初の1000年は非常に軍事的、経済的両側面において、一方的な流れが大陸から日本の方に向かってきた、こういうお話をされたのです。次の1000年、現在の20世紀ですが、この1000年においても、基本的にはグローバル化とかいうものがあっても、同じような流れがあった。ただしその中で、さまざまな質の違ったものが出てきています。その代表が欧州連合のようなものであり、こういったものが非常に世界的レベル、マルチラテラルなレベルで相互依存する社会というものを作ってきている。ここにおけるキーワードは、「相互依存」というのがこれまでの一番重要な問題であったのです。そしてその相互依存はどのような方向に生かされていかなければいけないかということ、それは経済的繁栄という方向と環境保全だというふうにお話をされたわけです。

さて第3番目の柱、これから次の1000年です。2000年あるいは2001年からの次の1000年ではどういうことが重要になるかというお話ですが、それは林先生によれば、「平和と共生」であるということです。この平

和と共生のためには、地域という考え方も非常に変わっていくだろうということです。新地域主義、新しい地域の考え方で物事が展開していくに違いないということです。

その次のお話を伺って、私は大変興味深く思ったのですが、韓国の国内で見ていると、釜山という町はいつも首都のソウルに遅れをとって、北の方を見ながら何とかソウルに追いつこうと思ってやってきた。これを日本的に言えば、京都の人たちは皆、大阪や東京を見ながら、何とか大阪や東京に似たような生活をしたかったと思ってやってきたということになるのではないのでしょうか。ところが釜山は、もう北を見るばかりではなくて、南を見るということによって、そこにソウルを乗り越える大きな契機があるのではないかと、こういうお話をされたわけです。

そして南を見ると、そこには海があって、海は今までは障害だったわけです。そこを越えることが非常に難しい障害物だったわけです。しかし、そこにおいては交通信号も渋滞もない、あるいはレーンもない。この障害をすごく可能性を含んだものと見ていこうということを言われたわけです。そして、そこにおいて一番重要な役割を演ずるのは港であろうと。もちろん、この舞鶴港のように海の港のみならず、空港、あるいは電信の港というさまざまな港を活用しながら、南の方向に向かっていくことによって、釜山の将来があるのだというお話をされたのです。

そして最後に、これからは最初の1000年、次の2000年ではなくて、新しい第3の1000年において、非常に多角的な、多角的な関係を展開させていこう、それが重要だと言われたわけです。

「釜山・大連からのメッセージ」

郭 長禄（東北财经大学副学長）

尊敬する舞鶴市長江守先生、尊敬する諸先生方、専門家の皆様、要人の皆様、本日私たちは、我が大学と大連市友好都市の舞鶴市、また立命館大学および韓国の友人の皆様方と一緒に、東北アジアの物流と港湾都市の課題について研究、議論することは、大変うれしく思います。これから私は、大連市の金融および我が大



学と大連市の経済発展の関係について紹介させていただき、また私なりの考え方を述べさせていただきたいと思います。

少し説明したいことがあります。郭先生の報告文書には載っていませんので、急速大連市の金融と大学の役割について私が報告します。翻訳していないので不十分なところがたくさんありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

第 1 は大連市の金融、改革の課題について。改革開放政策以来、大連市は全国と同じように、金融財政改革において、単一的な国家銀行システム、下等の銀行システム、および現代的商業銀行システムの 3 つの段階を通過しました。現在、大連市の銀行機構は、すでに多元化、種類がそろった金融体制局面となり、また国有金融、地方金融、外資金融などさまざまな機構が形成され、平等な競争の局面が形成されました。

申し上げたいことは、1 つには、大連市の金融体制が健全であるということです。大連市では、銀行、保険、信託証券、先物投資および仲介機構を含んだ金融機関は非常に備わっていて、店舗総数は 2000 あまりに達しています。現在は 14 社の中国国内銀行が大連に支店を設置しています。外国銀行では、14 社が大連に支店があります。大連市には外国金融機関が 27 あります。東北地方における金融機関の 79% ぐらいがあります。そのうち外資銀行は 10 社あり、日系銀行は 6 社あります。

2 つには、大連市の融資機能は比較的強いということです。さまざまな各項目の貯金と融資残高は急速に増加しています。1980 年末、大連市の人民元の貯金残高は 1106 億元、昨年の初めよりは 93.7 億元を増加し、融資残高は 1000 億元になります。去年の初めよりは 84.7 億元が増加しています。金融市場が活発です。1998 年の外貨取引金額は 14 億ドルで、全中国単列都市において第 1 位になりました。保険市場の保険金額は 3700 億人民元に達して、保険料の収入は 24.8 億人民元で、東北地方において第 1 位になっています。証券市場での取引金額は初めて 1000 億元を突破し、98 年より 33% 増加しています。

3 つには、国際金融業務が急速に発展しています。大連市の各外貨指定銀行は、世界の 150 あまりの国家と地域の約 4000 銀行と代理関係を結んで、国際決算業務量は 120 億ドルを突破しました。今年、大連市は、中

国の上海、深セン市に次いで、第 3 番目の外資銀行が人民元業務を営する指定都市になるように努力しています。建設銀行大連支店は、昨年個人住宅融資を始めて、今年はマイカーローンを開始することになりました。大連市のその他のいくつかの国有商業銀行大連支店も、全力を挙げて個人金融という業務を開始し、それと同時に、旅行、教育、結婚、および大きな消費などの消費融資業務を開始する予定です。いくつかの外資保険会社も、大連で支店を設置する希望を出しています。大連市の 2010 年までの金融改革および発展の目標は、国内において東北 3 省の先頭に立ち、東北アジア地域と結んで、巨大な輻射力のある現代的な多機能外交型の現代的な金融センター都市をすることで、それに向けて努力しています。主な方面においては、香港のような金融機能を発揮できるように努力しています。大連市の金融改革と急速な発展に従い、経済建設における斬新な変化が必ず人々の前に現れると予測しています。

第 2 のテーマとして、我が大学と大連市との経済発展の関係について述べたいのです。我が東北財経大学は、中国の財政府、大蔵省所管のもとで、遼寧省と大連市政府の援助をいただいている多角的な大学です。博士学位を与えることのできる 11 の専門課程があり、17 の学科は修士課程、本科の学位を与えることができます。また、博士号の研究機関として作られています。中国において、実力のある 4 つの財経大学の 1 つです。長年来我が大学と大連市との関係は非常に密接で、自分の役割を十分果たすように、大連市の経済、建設と発展に、私たちなりの貢献をしています。

1 つには、大連市に良質で高い人材を育成し送り出しています。大学にとって、地方政府、あるいはその所属する地域に一番大事な仕事は、その地方の発展のため、さらに多くの優秀な人材を育成し、送り出すことです。我が大学はずっと前から、全国から新入生を募集し、全国に卒業生を送り出しています。1993 ~ 1998 年の 6 年、我が大学では大連市にさまざまな人材、つまり博士、修士課程、本科生を含めて 1 万 118 名の卒業生を送り出しました。卒業生のうちには、すでに大連市の副市長、市長助理の人もいます。また、大連市の財政、税務、金融商業、外交貿易など、および在所型企業、事業、および在所都市企業の指導者、および専門人材を送り出しています。

2つには、大連市の実状に従って科学研究を行い、大連市の経済建設と発展を促進する役割を積極的に果たしています。我が大学は人材、知識、技術の集約の優勢を生かして、急激な大連市の実際の発展情勢に従い、科学研究を行って、大連市の経済発展と改革を推進する巨大な役割を果たしています。現在我が大学の教員および科学的研究員は、大連市のさまざまな学術団体において、156人はその職務を担当しています。そのうち、各学会の会長、副学長、理事長および副会長の人は49人います。

97～98年までに、我が大学の9項目の応用経済管理の課題が大連市政府科学委員会に移行され、大連市のほかの大学の中で第1になっています。96年以来、我が大学は、大連市政府、各区の区政府および関係部門と共同で学術会議を40回以上開いたことがあります。我が大学では、大連市の国有企業改革の実際について広く調査研究したうえで、国有企業改革および法人会社について研究し、その研究成果は、大連市政府も高く評価し、学術会議でも高く評価されています。この研究業績は大連市の企業グループおよび国有企業の改革のために応用され、良好な効果を上げました。

3つには、人材の集約の優勢を生かして、積極的に地方の政策に諮問の役割やサービスを提供しています。我が大学の教員、研究者には、大連市の人民代表大会の代表、および大連市、区の政治協商委員会の常務委員、議員および大連市政府の諮問、顧問の人が、併せて30人以上います。96～98年まで我が大学の、例えば政治協商委員会の常務委員の教員は、大連政府に大連の国有企業や株式会社の改革、また企業の破綻の整理、国有企業の余剰人員および失業人員の生活の保障や再就職、また外国資本の融資導入、住宅制度の改革、中国最大の外国商品市場の建設、それから環境保全、腐敗を除くことなどについて55の提案をしました。そのうち47項目が採用されました。

以上述べたように、東北財経大学の発展は、大連市の支持を離れることもできないし、また大連市の発展も東北財経大学の協力がなければできないのです。これは、我が大学が大連市の経済発展に関係があるという妥当的な評価だと思います。以上です。ありがとうございました。

釜山・大連調査報告

「北東アジア経済・物流ネットワークの特徴」

松野 周治（立命館大学経済学部教授）

ご紹介いただきました立命館大学の松野です。調査団を代表して、私の方から現地調査の結果や関連した資料の収集に基づいて、北東アジアの経済・物流のネットワークの現状と特徴について、お話をさせていただきます。

私の報告では、まず最初に北東アジアの経済ネットワークと物流に関する全体的な特徴について整理し、そのうえで調査地である釜山と大連の現状と今後の課題について簡単に触れ、最後に北東アジア地域が抱えている諸問題の解決方向についての、若干の提案をさせていただきますというように思っています。この資料の18～19ページに簡単なメモを用意しておりますので、それらを参考にお話を聞いていただければと思います。

最初に、北東アジアにおける経済ネットワークと物流の発展の全体的な特徴についてお話をさせていただきます。最初に言葉の問題なのですが、一応「北東アジア」と私が言う場合には、日本、韓国、北朝鮮、中国の東北、極東ロシア、この5つの地域を主に指しています。

この北東アジアには、北朝鮮、極東ロシア、それからバブル経済が崩壊したのちの日本のように、経済の縮小や停滞に見舞われている地域が存在しています。しかし、今回訪問させていただいた韓国、中国という

